

| | | | | | |
|----------|--|----|------|----|-----|
| 氏名 | 大場良子 | 部署 | 看護学科 | 職名 | 准教授 |
| 研究分野 | 成人看護学、がん看護学、緩和ケア、健康心理学 | | | | |
| 学位 | 修士（カウンセリング） | | | | |
| 学歴 | 1995年埼玉県立衛生短期大学、2002年青山学院大学文学部教育学科、2010年筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程修了 | | | | |
| 経歴 | 2004年埼玉県立大学保健医療福祉学部助手、2007年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教、2011年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授 | | | | |
| 所属学会（役職） | 日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本がん看護学会、日本ヒューマン・ケア心理学会（理事）、日本健康心理学会、日本カウンセリング学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会、AYAがんの医療と支援のあり方研究会 | | | | |

【2022年度実績】

| | | | | | | |
|--------------|---|-------|------|---|--|--|
| 1. 研究業績 | | | | | | |
| (1) 著作 | | | | | | |
| | 著作の名称 | 単・共 | ISBN | 発行所、全ページ数 | 著者、編者名 | 発行等年月 |
| 1 | 該当なし | | | | | |
| (2) 論文 | | | | | | |
| | 論文の名称 | 単・共 | 査読 | IF対象誌 | 雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ | 著者、編者名 |
| 1 | 「多職種連携におけるコーディネート力尺度」の開発-がん医療に携わる医療専門職を対象とした信頼性と妥当性の検討- | 共著 | あり | | Palliative Care Research 2023; 18(1): 1-10 | ○飯岡由紀子、大場良子、廣田千穂、森住美幸、小菅由美、真鍋育子、清崎浩一、馬場知子、関谷大輝、小倉泰憲、儀賀理暁、黒澤永 |
| 2 | がん治療がもたらす女性性の危機意識と再適応との関連 | 単著 | あり | | ヒューマン・ケア研究23(1):15-29 | ○大場良子 |
| (3) 学会発表 | | | | | | |
| | 学会発表の演題 | 単・共 | | 学会名、開催都市 | 発表者（発表者は○印） | 発表等年月 |
| 1 | 20年の活動で培った運営スタッフの経験知と専門性を活かした女性特有のがん患者支援の取り組み～運営スタッフの専門性と患者参画に焦点をあてて～ | 共同 | | 第60回日本癌治療学会学術集会（オンライン） | ○内山由紀、中野季里子、長谷川知子、矢後綾子、大場良子、小濱京子、木全明子、河村裕美 | 2022.9 |
| 2 | 看護師のリフレクティブシンキングとキャリア発達との関連 | 共同 | | 第42回日本看護科学学会学術集会 | ○久保田まりえ、飯岡由紀子、大場良子 | 2022.12 |
| (4) その他 | | | | | | |
| | 名称 | 単・共 | | 発表場所等 | 発表者（発表者は○印） | 発表等年月 |
| 1 | 該当なし | | | | | |
| 2. 競争的資金等の研究 | | | | | | |
| | 競争的資金等の名称 | | | 研究名 | 研究代表者・研究分担者の別 | 研究期間 |
| 1 | 文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C） | | | 中堅看護師の教育力深化を目指したアクティブラーニング型研修の | 研究分担者 | 2018.4～2024.3 |
| 2 | 文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B） | | | チームの納得を促進するための看護師のコーディネート力向上プロ | 研究分担者 | 2019.4～2024.3 |
| 3 | 文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C） | | | 小グループ学習法における総括的評価に資するピア評価の確立 | 研究分担者 | 2019.4～2024.3 |
| 4 | 文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C） | | | AYA世代婦人科がん体験者における女性性の危機と再適応を促す因果モデルの検証 | 研究代表者 | 2020.4～2024.3 |
| 3. 教育業績 | | | | | | |
| (1) 講義 | | | | | | |
| | 講義の名称 | 科目責任者 | コマ数 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） | | |
| 1 | 成人看護学Ⅲ | | 2 | 大腸手術後の機能障害をもつ患者の看護について講義を行った。 | | |
| 2 | 成人看護学Ⅴ | | 5 | 慢性疾患事例の看護過程演習として、PBLチュートリアルを活用したアクティブラーニングを行った。 | | |
| 3 | 理学療法学科_地域理学療法学演習 | | 1 | 理学療法学科の演習授業において、緩和ケアとリハビリテーションについて講義を行った。 | | |

| | | | | |
|---|-----------|--|----|---|
| 4 | がん看護学概論 | | 3 | がん看護専門看護師課程の学生を対象とし、①がん看護領域における対象理解と援助の基盤となる理論・概念について、その発展の過程をふまえ、定義、がん看護実践における意義を探求する。②既存の研究や実践での活用例に関する文献などを分析的かつ批判的に検討することで、理解を深める科目である。主な単元として、「がんサバイバーシップ」「自己効力感」「行動変容」を担当し、関連文献の検討や事例検討を中心に行った。 |
| 5 | がん看護学援助論Ⅱ | | 15 | がん看護専門看護師課程の学生を対象とした、がん化学療法と放射線療法をうけながら生活するがん患者・家族に対する看護、また、薬理作用、有害事象の予防と対処法、症状マネジメントについて学ぶ科目である。プレゼンテーションや討議を中心に実施した。 |

(2) 演習

| | 演習の名称 | 科目責任者 | コマ数 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） |
|---|----------|-------|-----|---|
| 1 | 成人看護Ⅲ | | 4 | 周術期の看護技術である、離床時のケアと寝衣交換の演習を行った。 |
| 2 | 成人看護学Ⅳ | | 4 | クリティカル演習「心肺蘇生法」を対面およびオンラインにて実施した。 |
| 3 | がん看護学演習Ⅱ | | 30 | 本科目では、緩和ケアおよびエンド・オブ・ライフケアにおけるがん看護専門看護師の役割を学ぶため、終末期に特有な疼痛をはじめとする症状マネジメントおよび全人的苦痛への緩和手法、援助的コミュニケーションを基盤とした意思決定支援と倫理調整、住み慣れた場所で最期まで生ききるための支援方法について探求する。フィールドワークや技術演習など参加型の授業を実施した。 |

(3) 実習

| | 実習の名称 | 科目責任者 | 学外実習：期間 学内実習：コマ数 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） |
|---|-----------|-------|---------------------|---|
| 1 | 成人看護学実習Ⅰ | | 2022.5～2022.6 | 3年生を対象にした急性期・クリティカルケアにかかわる実習である。本実習では臨地実習と学内実習を合わせて実施し、主に学内実習を担当した。 |
| 2 | 成人看護学実習Ⅱ | ○ | 2022.5～2022.6 | 3年生を対象にした臨地実習である。4日間の実習と学内実習を合わせて実施した。主に臨地実習で指導を行った。 |
| 3 | 総合実習 | | 2022.7 | 4年生を対象に、3週間の臨地実習において指導を行った。 |
| 4 | IPW実習 | | 2022.10 | 4年生を対象に、IPW実習のファシリテーターとして学習環境の整備とチーム活動を支援した。オンライン実習における教育支援を行った。 |
| 5 | がん実践看護実習Ⅰ | | 2023.1～2023.2 | がん看護専門看護師を目指す大学院生1名を対象に、訪問看護ステーションでの実習支援を行った。 |
| 6 | がん実践看護実習Ⅱ | | 2022.5～2022.6 | がん看護専門看護師を目指す大学院生2名を対象に、がん専門病院で診療実習の支援を行った。 |
| 7 | がん実践看護実習Ⅲ | | 2022.7～2022.9 | がん看護専門看護師を目指す大学院生2名を対象に、がん専門病院での役割実習の支援を行った。 |

(4) 論文指導

| | 対象 | 期間 | 主指導・副指導の別及び指導人数 | |
|---|------|----|-----------------|----------------|
| 1 | 卒業論文 | | 主指導 4名 | 副指導 名 |
| 2 | 修士論文 | | 主指導（指導教員） 名 | 副指導（指導補助教員） 3名 |

(5) その他

| | 名称 | 期間 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） |
|---|------|----|-----------------------|
| 1 | 該当なし | | |

4. 社会貢献活動

(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師

| | 講演会、研修会、公開講座等の名称 | 主催 | 講演、研修、公開講座等のテーマ | 開催年月 |
|---|------------------------------|---------------------|--|---------|
| 1 | 日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第23回大会・研修会 | 日本ヒューマン・ケア心理学会・研修委員 | フォーカシングーこころの声に耳を傾けるー | 2022.7 |
| 2 | エデュケーションナース研修 | 自治医大附属さいたま医療センター | エデュケーションナース研修の一部として、PBLテュートリアル体験を実施した。 | 2022.12 |
| 3 | 新人教育担当（新カフス）研修 | 川口市立医療センター | 「新人看護師を育てるとは」 | 2023.2 |

| | | | | |
|---------------------------|----------------|-----------------|--|---------------|
| 4 | オープンカレッジ講座 | 埼玉県立大学 | カンファレンスをより良くするスキルトレーニング | 2023.2 |
| 5 | オープンカレッジ講座 | 埼玉県立大学 | 認定看護師フォローアップ研修 講演「がん患者のライフデザインを応援する患者会の役割と支援の実際」 | 2023.3 |
| 6 | オープンカレッジ講座 | 埼玉県立大学 | その人らしさを支えるアピランス支援～がんサバイバーが求める支援を一緒に考えてみませんか？～ | 2023.3 |
| (2) 国、自治体、学術団体等における委員等 | | | | |
| | 国、自治体、学術団体等の名称 | | 委員等の名称 | 任期 |
| 1 | 日本ヒューマン・ケア心理学会 | | 理事（研修委員） | 3年 |
| (3) ジャーナリズムでの発言 | | | | |
| | メディア等の名称 | | | 年月 |
| 1 | 該当なし | | | |
| (4) その他 | | | | |
| | 項目 | 相手方等 | 内容 | 期間 |
| 1 | 地域貢献活動 | 認定NPO法人オレンジティ | 女性特有がん体験者（特に婦人科がん体験者）を対象にしたおしゃべりルーム（交流会）やアピランスケア、婦人科がん体験者と支援者との座談会をオンラインにて4回/月開催し、ファシリテーターとして参加支援している。 | 2022.4～2023.3 |
| 2 | 産業支援 | 中外製薬会社 | 婦人科がんの患者ニーズに関するアドバイザリー会議への参画 | 2022.9 |
| 5. 学内運営 | | | | |
| | 項目 | 内容 | | 期間 |
| 1 | 学生支援 | 学年担任 | | 2021.4～ |
| 2 | 学科等における委員会等 | 総合実習担当 | | 2021.4～2023.3 |
| 3 | 大学広報活動 | オープンキャンパス（模擬授業） | | 2022.8 |
| 6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの） | | | | |
| | 受賞名 | 主催 | 受賞年月 | |
| 1 | ポスター発表優秀賞 | 第60回日本癌治療学会学術集会 | 2022年9月 | |
| 7. 特許の取得 | | | | |
| | 特許名 | 特許番号 | 登録年月 | |
| 1 | 該当なし | | | |
| 8. 特記事項 | | | | |
| 1 | 該当なし | | | |